



宮崎大学履修証明プログラム

宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム

2020 年度 募 集 要 項

国立大学法人 宮崎大学
国際連携センター

(令和2年2月15日作成)

目次

I.	特徴.....	3
1.	履修証明プログラムによる国立大学法人初の日本語教員養成研修.....	3
2.	目指す日本語教員像.....	4
3.	充実したカリキュラムと講師陣.....	5
II.	概要.....	6
4.	対象者.....	6
5.	講義.....	6
6.	カリキュラム.....	8
7.	受講料等.....	9
III.	受講申し込み方法.....	10
8.	申込みから受講までの流れ.....	10
9.	申込み書類の準備.....	10
10.	申込み方法.....	10
11.	申込み受理確認.....	11
12.	受講料.....	11
13.	便覧.....	12
14.	その他.....	12

I. 特徴

1. 履修証明プログラムによる国立大学法人初の日本語教員養成研修

1.1. 日本語教員の資格

日本語教育機関の告示基準では、日本語教育機関で日本語教育に携わる全ての教員が、次の①～⑤のいずれかに該当する者、としています。これは、日本語修得を目的とした海外からの留学生等を受け入れることのできる日本語学校等において日本語教育を行う教員の資格です。したがって、これが一般的な「日本語教員の資格」となっています。

- ① 大学（短期大学を除く。以下において同じ。）又は大学院において日本語教育に関する教育課程を履修して所定の単位を修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者。
- ② 大学又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を 26 単位以上修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者。
- ③ 公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験に合格した者
- ④ 学士の学位を有し、かつ、日本語教育に関する研修であって適当と認められるものを 420 単位時間以上受講し、これを修了した者。
- ⑤ その他①から④までに掲げる者と同等以上の能力があると認められる者。

このうち、①②は大学等に入学し、所定の課程を修了する必要があります。一方、例外的な⑤を除く③④は、社会人等大学の課程に在籍しない方でも取得可能です。しかし、③は試験の難易度の高さもありますが、日本語教育に要する広範な内容を独学で修得することは難しく、また実際の教育現場での指導に向けては知識だけでなく専門的な学びや実習の経験が必要です。そこで、社会人で日本語教員を目指す方の多くが④の 420 単位時間の受講を経て資格を取得しています。

（日本語教育機関の法務省告示基準第 1 条第 1 項第 13 号に定める日本語教員の要件について

http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/kyoin_kenshu/

1.2. 国立大学法人唯一の日本語教員養成研修

「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム（以下、本プログラム）」は、「日本語教育機関の告示基準」（平成 28 年 7 月 22 日法務省入国管理局策定）第 1 条第 1 項第 13 号ニに規定する日本語教員の要件として適当と認められる研修について届出を受理された日本語教員養成研修実施機関・団体として、文化庁に届出が受理されました（届出受理番号：R01062645001 令和元年 6 月 26 日）。108 ある日本語教員養成研修実施機関・団体の中で、唯一の、社会人に開かれた国立大学法人の日本語教員養成研修です。

（日本語教員養成研修実施機関・団体（令和 2 年 2 月 11 日確認）

http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/kyoin_kenshu/pdf/kyoin_kenshu_list.pdf

1.3. 履修証明プログラム

本プログラムは、学校教育法に則った履修証明制度に基づく「履修証明プログラム」です。履修証明制度とは、大学等が社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できることとした制度です。履修証明プログラムは、各種資格の取得と結び付けて開講できることから、本プログラムでは文化庁届出の日本語教員養成研修として開講しています。したがって、本プログラムの修了者には、420 単位時間日本語教員養成研修の修了証書だけでなく、大学からの正式な「履修証明書」が交付されます。

（履修証明制度 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/）

2. 目指す日本語教員像

2.1. 目的

文化庁が示す「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（平成30年3月）」の中で、日本語教育人材役は次の3つに整理されています。本プログラムでは、このうち①日本語教師の養成を目的としたカリキュラムを組んでいます。

- ① 日本語教師：日本語学習者に直接日本語を指導する者
- ② 日本語教育コーディネーター：日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善、日本語教師等に対する指導・助言を行うほか、多様な機関との連携・協力を担う者（日本語教師の中堅を経た者であり、関係機関との連携の下、「生活者としての外国人」に対する教育プログラムの編成・実施に携わる地域日本語教育コーディネーター、および在留資格「留学」が取得できる法務省が告示した日本語教育機関で教育課程の編成や他の教員の指導を担う主任教員）
- ③ 日本語学習支援者：日本語教師や日本語教育コーディネーターと共に日本語学習者の日本語学習を支援し、促進する者

2.2. 目標

同「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」では、「日本語教育人材に求められる資質・能力」として、日本語教育人材、および専門家としての日本語教師について、それぞれ次のように示しています。これらの示すところは、日本語教員とは単に「日本語を教える人」ではなく、「日本語教育の専門家」であるということです。本プログラムでは、これらを意識した専門性の高い講師陣によるカリキュラムを提供します。

1) 日本語教育人材に共通して求められる基本的な資質・能力

- ① 日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持っていること。
- ② 多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化的多様性を理解し尊重する態度を持っていること。
- ③ コミュニケーションを通じてコミュニケーションを学ぶという日本語教育の特性を理解していること。

2) 専門家としての日本語教師に求められる資質・能力

- ① 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。
- ② 日本語だけでなく多様な言語や文化に対して、深い関心と鋭い感覚を有していること。
- ③ 国際的な活動を行う教育者として、グローバルな視野を持ち、豊かな教養と人間性を備えていること。
- ④ 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱を有し、常に学び続ける態度を有していること。
- ⑤ 日本語教育を通じた人間の成長と発達に対する深い理解と関心を有していること。

(日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版（平成31年3月4日）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/r1393555_03.pdf)

3. 充実したカリキュラムと講師陣

3.1. カリキュラム

本プログラムは、文化庁指針や法務省告示に基づく3領域・5区分・16下位区分に完全に対応しています。そして、420単位時間のうち、200単位時間以上を「言語教育法・実習」に充てており、理論だけでなく、教育実践能力に重点を置いています。

また、日本語教育能力検定試験にも対応した内容となっています。試験に合格するために必要なポイントを分かりやすく指導・助言します。

3.2. 地域連携

本プログラムでは、国立大学法人宮崎大学（国際連携センター）と、学校法人宮崎総合学院（宮崎情報ビジネス医療専門学校日本語科）が連携して指導を行います。これにより、実践的かつ専門性の高い講義、実習を提供します。

3.3. 講師陣

次のような経験豊富、気鋭の講師陣が指導にあたります。また、専門性の高い実力派特別講師による講義もあります。

- ・ 宮崎大学 13名
日本語：(常勤) 杉村佳彦、寺尾智史、金智賢、(非常勤) 工藤浩、和田恵、前田淳（元宮崎国際大学教授）、(名誉教授) 長友和彦
言語・文化：(常勤) 胡屋武志、藤井久美子、(名誉教授・元教員) 岡林稔、井上修一、平瀬清
情報：(常勤) 伊藤健一
- ・ 宮崎総合学院宮崎情報ビジネス医療専門学校（日本語科） 2名
日本語：(専任) 有馬こず恵、森永恭代
- ・ 特別講師 6名
日本語教育史：平高史也（慶應義塾大学教授）、日本語：森山新（お茶の水女子大学大学院教授）、音韻・音声：中川千恵子（國学院大学大学院兼任講師）、言語：大関浩美（麗澤大学大学院言語教育研究科准教授）、コミュニケーション：李曉燕（九州大学共創学部准教授）、情報：荻野次信（株式会社教育情報サービス代表取締役）

(所属・講義科目数・五十音順、映像授業講師含む)
(講師都合により変更の場合があります)

3.4. 修了後

日本語教育の基礎を身に着けた初任の日本語教師として、広く日本語教育や外国人支援、異文化接触、多文化共生等に携わって研鑽を積み、経験豊富な日本語教師となられて、地域、海外でご活躍されることを期待しております。

また、そうした修了者には、海外大学や地域等から本学に寄せられる日本語教育の養成等をご案内させていただきます。(実地に際しては、受入れ先の要件等がありますのでご了承ください)。

(例)

- ・ 経験・実績の提供： 宮崎国際教育サービスでのインターンシップ。
- ・ 短期： 短期留学プログラム等での外国人留学生等への日本語指導。
- ・ 海外： 海外連携事業での短期・長期日本語教師派遣、海外大学等での日本語教育支援。
- ・ 地域： 企業、社会人、生活者向け、地域の日本語学習者向け日本語支援。

II. 概要

4. 対象者

4.1. 受講資格

- ① 高等学校を卒業している者*
- ② ①と同等以上の学歴を有する、あるいは同等以上の学校教育を修了している者
- ③ その他、本学が認める者
(*但し、法務省告示の日本語教育機関の教員を目指す場合は大学卒業の学位「学士」が必要になります。)

4.2. その他の受講要件

- ① 日本語が母語ではない方の場合
下記のいずれかの条件を満たすこと。
 - 1) 4.1.とは別に、日本語能力試験 (JLPT) N1、あるいは同等以上の試験に合格している者。
 - 2) 上記と同等以上であり、修学が可能と判断される者。

4.3. 定員

- ・ 35名
 - 申込み者多数の場合、定員に達した時点で締め切ることがあります。
 - 最低開講人数 (15名) に満たない場合は、開講しない場合があります。

5. 講義

5.1. 実施形態

- ・ 通信制： 対面講義と Web での視聴による通信授業 (全体の約半分)。
 - 講義科目： 主に映像授業
 - 実習科目： 主に対面講義・指導全体の約半分の座学が通信のため、自分の時間に合わせて学ぶことができます。
一方、プログラムの半分を占める実習については、ほとんどが講師による対面指導ですので、日本語教育を直接学ぶことができます。

5.2. 期間

- ・ 第2期： 2020年6月8日 (月) ～ 2021年3月17日 (水) (10ヶ月)
 - なお、第3期 (2021年度) 以降については、2021年4月から (10ヶ月) を予定しています。
- ・ オリエンテーション： 2020年6月6日 (土)
- ・ 修了式： 2021年3月27日 (土)

5.3. 時間

- ・ 授業日時
 - 通常講義： 月・水 18:15 ～ 20:40 (3単位時間) × 72日 (通信講義数により減じる可能性)
 - 集中講義： 土 10:20 ～ 17:00 (6単位時間) × 14回 (通信講義数により減じる可能性)
 - 通信講義： 随時 (ただし、試験日に合わせてそれまでに受講)
- ・ 単位時間： 1単位時間 = 45分
- ・ 試験： 土 10:20 ～ 17:00 (6単位時間) × 6回 (追試、再試を含む)
(講義日程、時間数は調整される場合があります)

5.4. 場所

- ・ 対面授業は、講義と実習に分かれて、主に下記で開講されます。
 - 講義： 宮崎大学木花キャンパス、宮崎大学まちなかキャンパス
 - 実習： 宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス医療専門学校
- ・ 実習等の一部授業は、実習に協力する日本語学習者に合わせて場所と時間が変更となる場合があります。
- ・ 各場所の詳細は次の通りです。

① 宮崎大学木花キャンパス

〈所在地〉 〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1 宮崎大学教育学部棟講義室、または図書館3階
 〈最寄りの公共交通機関〉 JR 日南線木花駅、宮交バス宮崎大学バス停
 〈駐車場〉 あり（無料）

② 宮崎大学まちなかキャンパス

〈所在地〉 〒880-0805 宮崎市橋通東 3丁目 4-36 村武ビル1階（若草通りアーケード内）
 〈最寄りの公共交通機関〉 JR 日豊本線宮崎駅、宮交バス橋通3丁目バス停
 〈駐車場〉 なし（自家用車でお越しの際は、近隣の有料駐車場等をご利用ください。）

③ 宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス医療専門学校

〈所在地〉 〒880-801 宮崎市老松 2-1-17 宮崎総合学院 10号館（建物が変更になる場合があります）
 〈最寄り駅〉 JR 日豊本線宮崎駅
 〈駐車場〉 あり（台数限りあり。駐車場が満車の場合は近隣の有料駐車場等をご利用ください。）

5.5. 日程

講義開講の日程（予定）は次の通りです。

月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8
6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15
6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22
6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29
6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	11/30	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6
7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13
7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20
7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27
7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3
8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10
8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17
8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24
8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31
8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7
9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14
9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21
9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28
9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7
10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14
10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21
10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28
10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1							

講義日 試験日 オリエンテーション、修了式

6. カリキュラム

6.1. 領域・区分・科目名・単位時間

文化庁指針や法務省告示に基づく3領域・5区分・16下位区分に対応した24科目で構成されています。また、科目により授業回数（単位時間数）が異なります。実施に際しては若干科目の単位時間数が前後する場合があります。

文化庁区分			本プログラム	
3領域	5区分	16下位区分	科目名	単位時間
社会・文化・地域に関わる領域	社会・文化・地域	① 世界と日本	1) 世界と日本	7
		② 異文化接触	2) 異文化接触・異文化理解と心理*1	6
		③ 日本語教育の歴史と現状	3) 日本語教育の現状と歴史	12
	言語と社会	④ 言語と社会の関係	4) 言語と社会の関係	9
		⑤ 言語使用と社会	5) 言語使用と社会	6
		⑥ 異文化コミュニケーションと社会	6) 異文化間コミュニケーション教育*2	3
	言語と心理	⑦ 言語理解の過程	7) 言語理解の過程	6
		⑧ 言語習得・発達	8) 言語習得・発達	12
		⑨ 異文化理解と心理	2) 異文化接触・異文化理解と心理*1	6
教育に関わる領域	言語と教育	⑩ 言語教育法・実習	9) 日本語教授法	9
			10) 言語教育の基本	9
			11) 日本語教育の実践1（コースデザイン）	15
			12) 日本語教育の実践2（初級指導）	42
			13) 日本語教育の実践3（中級・上級指導）	18
			14) 日本語教育の実践4（技能別指導）	15
			15) 教育実習	99
			16) 評価法	12
言語に関わる領域	言語	⑪ 異文化間教育とコミュニケーション教育	6) 異文化間コミュニケーション教育*2	9
		⑫ 言語教育と情報	17) 言語教育と情報	12
		⑬ 言語の構造一般	18) 言語の構造一般	12
		⑭ 日本語の構造	19) 日本語分析	16
			20) 音韻・音声	18
			21) 文字・表記	18
			22) 形態・語彙・意味	18
23) 日本語教育文法	25			
⑮ 言語研究	-	-		
⑯ コミュニケーション能力	24) コミュニケーション能力	6		
合計				420

注： *1 16下位区分の②⑨は科目「異文化接触・異文化理解と心理」に統合

*2 16下位区分の⑥⑪は科目「異文化間コミュニケーション教育」に統合

6.2. 成績評価

24科目の全講義を受講後、科目ごとに成績評価を行います。

試験の評点は、100点とします。

- ・ 講義科目の評価
 - 各科目の終了時に筆記試験を行い、その結果に基づき評価します。
 - 秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格となります。
- ・ 教育実習の評価
 - 模擬授業と教壇実習を担当講師が以下の評価基準により評価します。
 - 秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格となります。

6.3. 受講・学習支援

- ・ 欠席の補充および休講時の対応
 - 対面講義を欠席の場合、欠席者に対して、録画授業の視聴による受講の補充等の機会を与えます。
 - 休講の場合、予備日に振り替える、あるいは上記と同様に録画授業による補充等を行います。
- ・ 保留の扱い
 - 不可ながら、評点が30点以上59点は保留とし、希望者に対して再評価を検討します。

6.4. 修了要件

- ・ 成績： 全24科目について合格すること。

7. 受講料等

7.1. 受講料

- ・ 受講料： 490,000円
 - 入学金なし
 - 教材費用込み（ただし、講師が紹介する参考書籍等は含まれません）
 - 駐車場無料（宮崎大学木花キャンパス）
 - 分割支払いあり
- ・ 支払時期
 - 一括： 受講開始前（5月）
 - 分割： 1回目（5月）、2回目（10月予定）

7.2. 教育訓練給付金について

本プログラムは、教育訓練支援給付金制度の対象となっておりません。ご了承ください。

7.3. 教材

教科書および配布物は受講料に含まれます。教科書はオリエンテーション、および随時配布の予定です。その他、講義の際に講師より補助教材としてプリント等が配布される場合があります。



III. 受講申し込み方法

8. 申込みから受講までの流れ

- ① 募集要項 配布： 2020年2月17日（月）より、Websiteよりダウンロード
- ② 募集期間： 2020年3月23日（月）～4月17日（金）必着
- ③ 申込み方法： メールで必要書類を提出後、併せて必要書類を郵送。
- ④ 申込み受理確認： メールでの申込み受理後、5日以内にメールで返信。
- ⑤ 受講判定： 申し込み書類を確認し、受講の可否を判断。
必要に応じて問い合わせする場合があります。
- ⑥ 受講許可通知： 4月下旬～5月上旬、メールにて受講許可を連絡。受講料納入の依頼。便覧送付。
(便覧の書面はオリエンテーションで配布予定)
- ⑦ 受講料納入： 2020年5月18日（月）～2020年5月22日（金）(分割は1回目分)
- ⑧ オリエンテーション：2020年6月6日（土）午後（詳細は、申し込み後に別途ご連絡）
- ⑨ 受講開始： 2020年6月8日（月）～ 場所：初回は、宮崎大学木花キャンパス

9. 申込み書類の準備

9.1. 申込み書類

- ① 申込書： 様式1
- ② 履歴書： 様式2
- ③ 写真： 縦：横＝5：4（免許証用の縦3cm×横2.4cmと同比率）の顔写真
(無帽、背景淡色無地等、基本要件は免許証用と同様)。ファイル種類は、jpg (5Mb 以内)。
- ④ 学歴証明書（写し）： 履歴書に記載の最終学校または高等学校以上の卒業（修了）証明書の写し、あるいは高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）の合格を示す書類等の写し、またあるいはそれらを証明できるもの。
- ⑤ 日本語能力証明（写し）： 日本語が母語でない方は、日本語能力試験（JLPT）等の合否通知または認定証等の写し、または日本語能力を確認できるもの。JLPTのN1およびN1相当以上の資格を満たさない場合、受理の前に、面接を行う場合があります。

9.2. 様式、記入方法

- ・ 所定の様式は、下記よりダウンロードしてください。
Website <https://jltec.vss.miyazaki-u.ac.jp/>
- ・ 自署、押印の箇所を除き、様式に従って全てパソコンで入力のこと。

10. 申込み方法

10.1. 電子メール

- ・ 提出物：
 - 様式1、2のWordファイル（①申込書（様式1）、②履歴書（様式2））
 - ③写真
- ・ 件名： 日本語教員養成プログラム申込み（氏名）
- ・ 送付先： jltec@cc.miyazaki-u.ac.jp

10.2. 郵送



- ・ 電子メール送付後、郵送。
- ・ 提出物：
 - ①申込書（様式1）を印刷し、押印
 - ②履歴書（様式2）を印刷し、署名
 - ④学歴証明書（写し）
 - （必要な方のみ）⑤日本語能力証明（写し）
- ・ 送付先
 - 住所： 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学 国際連携センター
- ・ 備考： 封筒に「教員養成プログラム申込み書類在中」と朱書き。

11. 申込み受理確認

- ・ 電子メールでの申込みを受信後、担当より送信メール宛に返信。
- ・ メール送信後、5日以上経っても返信が無い場合、不達の可能性があるため、お問い合わせください。

12. 受講許可通知

- ・ 大学内で受付を承認後、4月下旬～5月上旬に受講許可をメールで通知。

13. 受講料

13.1. 支払い方法の選択

- ・ 一括、分割の選択は、申込み書類に記載。

13.2. 金額・期間

- ・ 受講許可の通知を確認後、下記の期間にご納入ください。
- ・ 期間外の納入の場合、確認に時間がかかる場合、あるいは確認できない場合があります。

1) 一括

- ・ **490,000円**
- ・ 入金期間： 2020年5月18日（月） ～ 2020年5月22日（金）

2) 分割

- ・ 一括と同じ金額を、下記2回に分割納入。
- ① 1回目： **240,000円**
入金期間： 2020年5月18日（月） ～ 2020年5月22日（金）
- ② 2回目： **250,000円**
入金期間： 2020年10月19日（月） ～ 2020年10月23日（金）

13.3. 納入方法

- ・ 銀行振り込み。
- ・ 納入方法： プログラム申込者（受講予定者）ご本人の名義で下記の口座にお振込ください。
- ・ 振込み先銀行口座
 - 宮崎銀行 清武支店 普通預金口座 57863
国立大学法人宮崎大学 ダイ) ミヤザキダイガク
- ・ 備考： 振込手数料はお客様のご負担となります。



13.4. 受講料の取り扱いについて

- ・ 一度納入された受講料につきましては、いかなる理由においても返金されません。
- ・ 申込が受理された時点で、全カリキュラムを受講することが前提となっております。したがって、分割の場合におきましても、後半に受講されない場合でも、2回目の受講料の納入が必要となります。

14. 便覧

- ・ 受講開始1週間前までに、pdfファイルにてメールで送付。
- ・ 印刷媒体は、開講時にお渡しします。

15. その他

15.1. 個人情報保護の取り扱い

受領しました個人情報は、本プログラムに関する案内、連絡等の他、申込者各位への日本語教育関連の情報提供の際に利用する場合があります。なお、宮崎大学の規定に基づき厳重に管理いたします。

【問い合わせ先】

宮崎大学 国際連携センター

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

E-mail: ilttc@cc.miyazaki-u.ac.jp

※ご連絡の際は、E-mailでお問い合わせください。